経済産業省生産動態統計調査及び熊本県生産動態統計調査用還元資料

熊本県鉱工業の最近の動き

平成２６年１０月～１２月期

熊本県企画振興部　交通政策・情報局

統計調査課

くまもと
サプライズ

熊本県鉱工業指数について

熊本県鉱工業指数は、本県の鉱工業の動向を総合的に把握することを目的として、生産量、出荷量、在庫量の統計数値の大きさを比較できるように、基準を「100」としてそれに対する比率で表し指数化したものです。生産指数は、生産活動の生産水準を表します。生産者出荷指数は、生産活動によって生産された製品の出荷水準を表し、鉱工業に対する需要動向を示します。生産者製品在庫指数は、生産活動によって生産された製品が、出荷されずに生産者の段階に残っている在庫の動きを表します。

この鉱工業指数は、鉱工業関連の産業が経済活動全体に対して高い割合をもつこと、景気の動向に敏感であること、速報性があること、などから経済全体の動きを見るうえで重要な指標となっています。

熊本県鉱工業指数の作成概要

１　本県の鉱工業の動向を総合的に把握することを目的とします。

２　平成２２年（２０１０年）を基準年とします。

３　日本標準産業分類の鉱業及び製造業を基礎とした産業の生産指数（付加価値額ウェイト）、生産者出荷指数及び生産者製品在庫指数について、原指数と季節調整済指数を作成します。

４　日本標準産業分類を基本とした業種分類と、採用品目の用途により財別に格付けした特殊分類の２つの方法によりますが、本書は業種分類のみとします。

５　生産及び出荷は１４３品目、在庫は９４品目採用しています。

６　生産、出荷及び在庫のウェイトは、基準年次の付加価値額、生産者出荷額及び生産者製品在庫額の鉱工業指数総合に対する各品目の１万分比になっています。

７　算式は基準時固定加重算術平均法（ラスパイレス算式）によります。

８　季節調整とは、季節指数で原指数を割ることによって季節変動を除去した系列の指数にすることです。季節調整の方法は、センサス局法（生産･出荷指数は X-12-ARIMA、在庫指数は X-12-ARIMA の中の X-11 デフォルト）を使用しています。

９　資料出所は、毎月、県内の事業所等から報告されている実績値のデータ（「経済産業省生産動態統計調査」、「熊本県生産動態統計調査」等）によります。

１０　その他

(1)　統計表中等の記号は次によります。

「－」　該当がないもの　　「0」　単位未満のもの

「▲」　負数(マイナス)のもの　　「x」「※」　統計の秘密保護の立場から、特に内容を秘匿したもの

(2)　数値の単位未満は四捨五入しているため、合計と内訳が一致しない場合があります。

(3)　季節調整済指数は時系列ごとに季節調整を行うため、合計と内訳は一致しない場合があります。

参考

※「経済産業省生産動態統計調査」とは

・調査の目的

経済産業省生産動態統計調査は統計法に基づく統計調査(基幹統計)として、経済産業省生産動態統計調査規則によって毎月実施されており、わが国鉱工業の生産活動の実態を迅速に把握して産業経済政策の基礎資料を得ることを目的とし

ています。

・調査の範囲

経済産業省生産動態統計調査規則に定める品目について生産（加工を含む）する事業所であって、事業所全体の常用従業者数が一定規模以上である事業所が調査の対象となります。

・調査事項

調査票記載の品目に従い、生産、受入、出荷、在庫の数量もしくは金額、原材料及び燃料の消費量、生産能力、従業者数、機械及び設備の保有台数等を調査します。

・調査結果の集計・公表

経済産業省で集計し、毎月「経済産業統計」、部門ごとの統計月報として公表しています。

※「熊本県生産動態統計調査」とは

・調査の目的

本県における鉱工業の生産状況を調査して、産業活動の実態を明らかにすることを目的とします。

・調査の範囲

調査対象品目として指定された鉱産物及び工業品を生産する事業所等を対象とします。

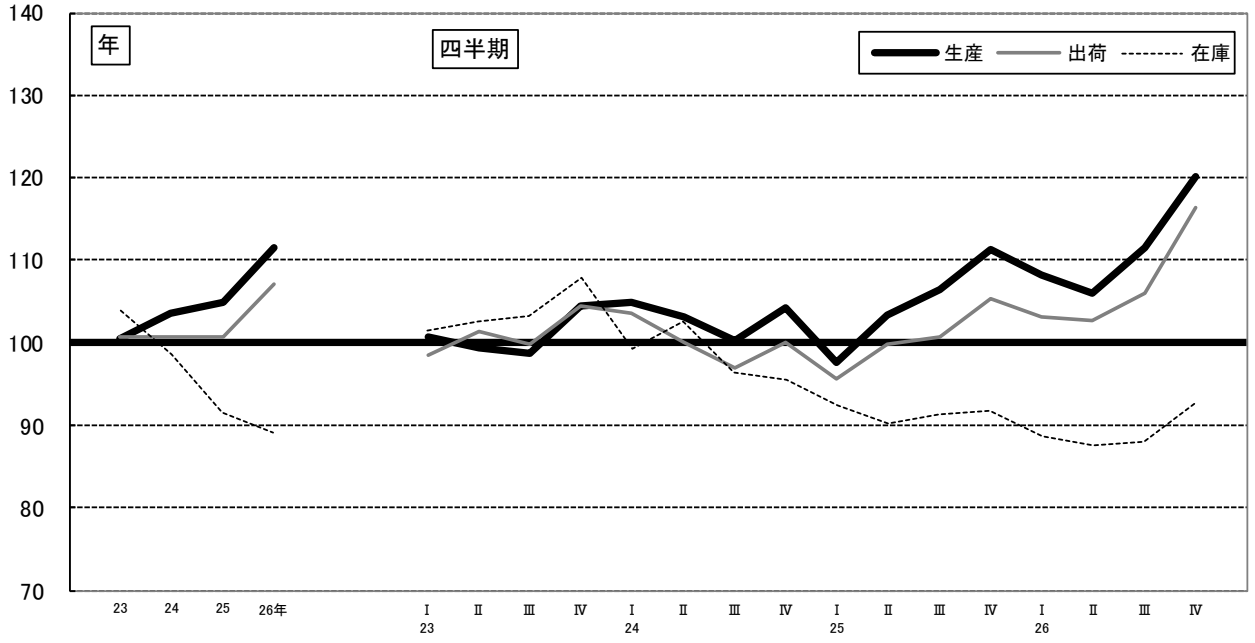
・調査事項

生産品目に関し、生産、出荷、在庫の数量もしくは金額を調査します。

・調査結果の集計・公表

経済産業省生産動態統計調査結果の県内分データを含めて本県で集計した結果を基に熊本県の鉱工業指数を作成し、「熊本県鉱工業動向」（月報）、「熊本県鉱工業の最近の動き」（四半期報）、「熊本県鉱工業生産出荷在庫指数（年報）」として公表しています。

鉱工業指数の年、四半期別推移



（年は原指数、四半期は季節調整済指数　　平成22年＝100）

《平成２６年Ⅳ期の総合指数四半期別動向概要》

【生産】　平成２６年１０～１２月期の鉱工業生産指数は、前期比７．７％増の１２０．１で２期連続のの増加となりました。業種別では、はん用・生産用機械工業や電子部品・デバイス工業などが上昇しましたが、ゴム製品工業や非鉄金属工業などが低下しました。

【出荷】　出荷指数は、前期比９．９％増の１１６．４で２期連続の増加となりました。業種別では、電子部品・デバイス工業やはん用・生産用機械工業などが上昇しましたが、その他工業やゴム製品工業などが低下しました。

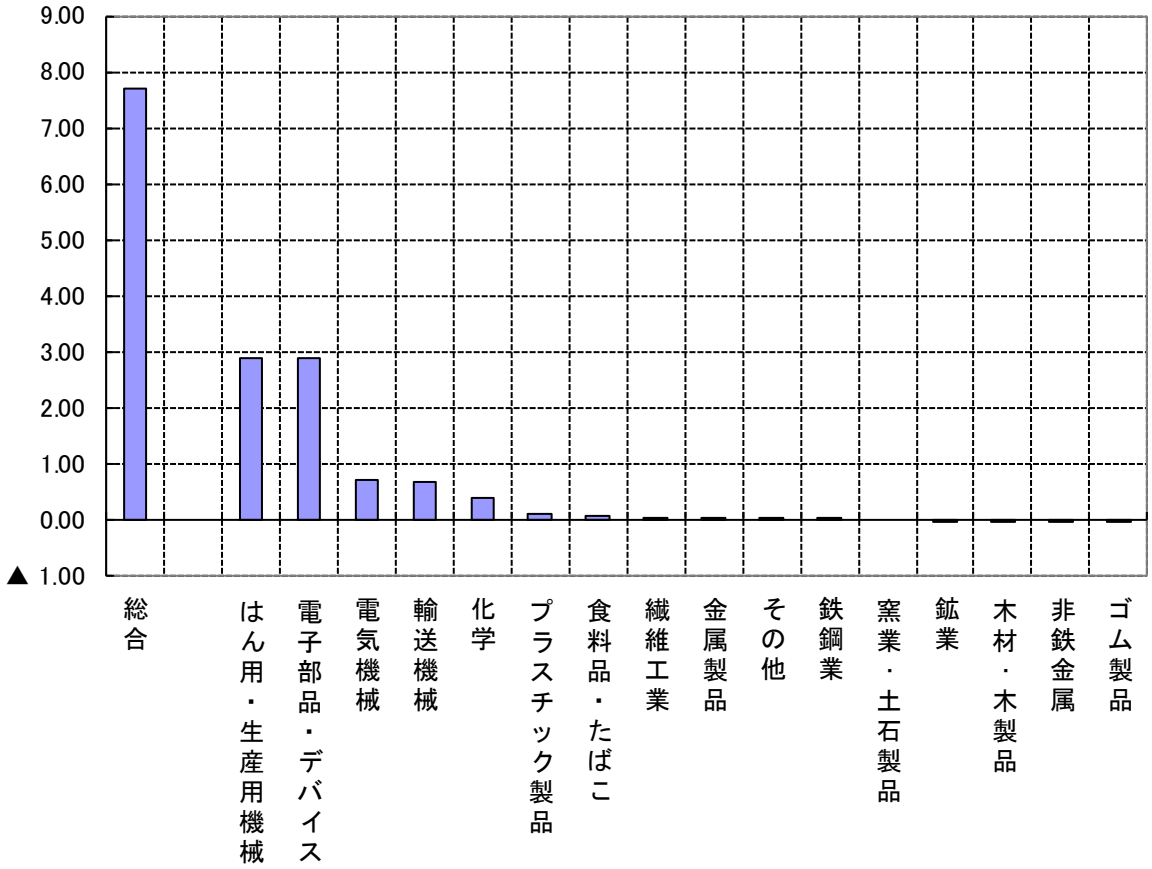
【在庫】　在庫指数は、前期比５．３％増の９２．６で２期連続の増加となりました。業種別では、食料品・たばこ工業などが上昇しましたが、輸送機械工業や金属製品工業などが低下しました。

鉱工業指数の推移（平成２２年＝１００）

	平成24年	平成25年	平成26年	平成25年	平成26年			
				Ⅳ 期	Ⅰ 期	Ⅱ 期	Ⅲ 期	Ⅳ 期
生　産　指　数	103.6	104.9	111.5	111.4	108.1	105.9	111.5	120.1
前　期　比	—	—	—	4.7	▲ 3.0	▲ 2.0	5.3	7.7
前年(同期)比	3.1	1.3	6.3	9.2	10.6	2.3	4.9	7.2
出　荷　指　数	100.8	100.7	107.0	105.4	103.2	102.7	105.9	116.4
前　期　比	—	—	—	4.6	▲ 2.1	▲ 0.5	3.1	9.9
前年(同期)比	0.1	▲ 0.1	6.3	7.4	7.4	2.7	5.2	9.4
在　庫　指　数	98.5	91.6	89.1	91.8	88.7	87.5	87.9	92.6
前　期　比	—	—	—	0.4	▲ 3.4	▲ 1.4	0.5	5.3
前年(同期)比	▲ 5.1	▲ 7.0	▲ 2.7	▲ 2.7	▲ 4.9	▲ 3.1	▲ 3.8	0.8

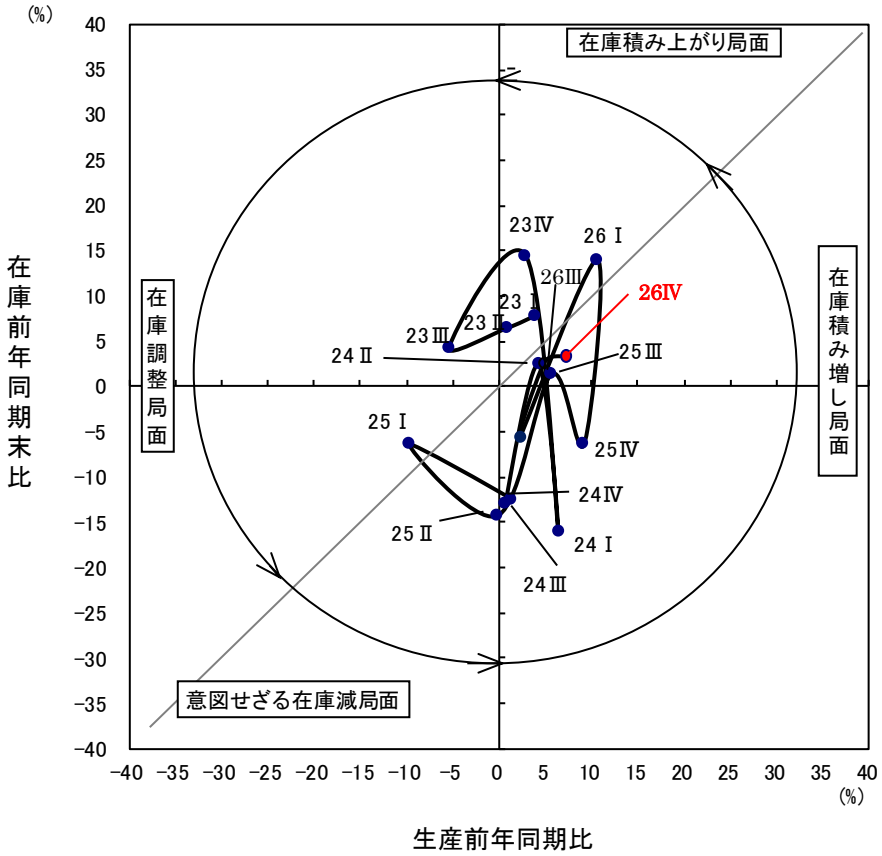
※年指数及び前年(同期)比は原指数、四半期指数及び前期比は季節調整済指数による。平成26年Ⅳ期は速報値。

鉱工業生産に対する業種別寄与度（平成２６年Ⅳ期）



※　寄与度は、各業種の寄与度の合計が生産の総合指数の対前期比上昇率に一致するように計算してあります。ウェイトが反映されますので、業種によっては上昇幅が大きくても、ウェイトが非常に小さければ全体に対する貢献度は低くなる場合があります。また、ほとんどの業種が低下してもウェイトの大きい業種が上昇すれば、全体ではプラスになることがあります。

在庫循環の動き



今期（２６年Ⅳ期）の動きを在庫循環図で見ると、生産（原指数）は前年同期比で７．２％増、在庫（原指数）は前年同期末比※で３．３％増となりました。
今期は、「在庫積み増し局面」に位置しています。

※在庫前年同期末比・・・昨年と今年の各３，６，９，１２月の在庫指数（原指数）を比較したもの。

在庫局面の意味

・意図せざる在庫減局面

需要の増加に追いつかず在庫が減少する。

・在庫積み増し局面

需要が供給より多くなると、生産を拡大し、在庫を積み増して需要に対応する。

・在庫積み上がり局面

供給が需要より多くなると、在庫が適正水準を超え、在庫の積み上がりが起きる。

・在庫調整局面

適正水準を超えた在庫を減らすため、生産を抑制し在庫調整を図る。

業種別の当期（26年Ⅳ期）の動向

業種	当期の特徴	前期比		
		生産	出荷	在庫
鉱工業総合	前期比　生産 7．7％増、出荷9．9％増、在庫 5．3％増 前年同期比　生産7．2％増、出荷 9．4％増、在庫 0．8％増	↑	↑	↑
鉄鋼業	生産は上昇、出荷は2期連続の低下、在庫は5期連続の上昇	↑	↓	↑
非鉄金属工業	生産は3期連続の低下、出荷は3期ぶりに上昇、在庫は4期ぶりに低下	↓	↑	↓
金属製品工業	生産は上昇、出荷は上昇、在庫は2期連続の低下	↑	↑	↓
はん用・生産用機械工業	生産、出荷は4期ぶりに上昇	↑	↑	x
電気機械工業	生産は4期ぶりに上昇、出荷は2期連続の上昇	↑	↑	x
電子部品・デバイス工業	生産、出荷は3期連続の上昇、在庫は4期連続の低下	↑	↑	↓
輸送機械工業	生産、出荷は3期ぶりに上昇、在庫は3期ぶりに低下	↑	↑	↓
窯業・土石製品工業	生産は横ばい、出荷は4期連続の低下、在庫は2期連続の上昇	→	↓	↑
化学工業	生産は4期連続の上昇、出荷は3期連続の上昇、在庫は2期連続の上昇	↑	↑	↑
プラスチック製品工業	生産は3期連続の上昇、出荷は2期連続の上昇、在庫は2期連続の低下	↑	↑	↓
パルプ・紙・紙加工品工業	在庫は3期連続ぶりに上昇	x	x	↑
繊維工業	生産は上昇、出荷は低下、在庫は3期ぶりに低下	↑	↓	↓
ゴム製品工業	生産は2期連続の低下、出荷は3期連続の低下、在庫は5期連続の上昇	↓	↓	↑
木材・木製品工業	生産は2期連続の低下、出荷は2期連続の上昇、在庫は3期ぶりに低下	↓	↑	↓
食料品・たばこ工業	生産、出荷、在庫とも上昇	↑	↑	↑
その他の工業	生産は3期ぶりに上昇、出荷は低下、在庫は2期連続の上昇	↑	↓	↑
鉱業	生産、出荷は4期ぶりに低下、在庫は11期連続の低下	↓	↓	↓

「前期比」、「前年同期比」欄の「↑」は上昇、「↓」は低下、「→」は横ばいを表します。

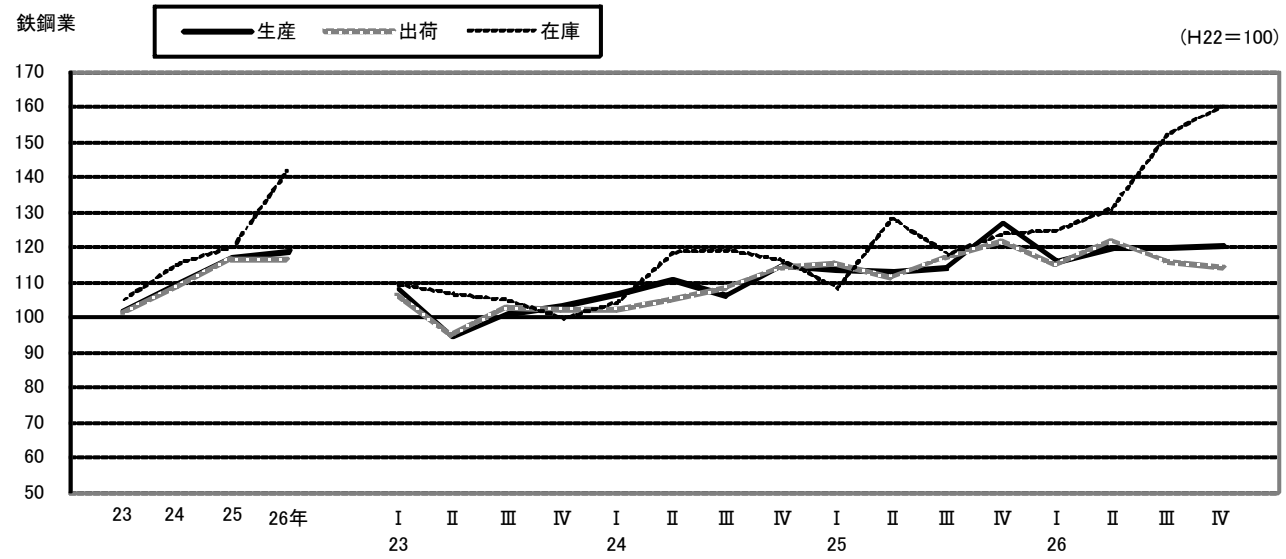
前年同期比			品　目　別　生　産　動　向	
生産	出荷	在庫	主な前期比上昇品目	主な前期比低下品目
↑	↑	↑		
↓	↓	↑	※	※
↓	↑	↑	※	※
↓	↓	↓	建設用金属製品	建築用金属製品
↓	↓	x	特殊産業機械	※
↓	↓	x	開閉制御装置・機器	※
↑	↑	↓	集積回路	※
↓	↓	↑	※	―
↓	↓	↓	コンクリート・セメント製品	※
↑	↑	↑	※	※
↑	↑	↑	プラスチックフィルム	※
x	x	↓	※	※
↓	↓	→	衣類	※
↓	↓	↑	―	※
↓	↓	↑	合板	一般製材
↓	↓	↑	※	その他の食料品
↑	↑	↑	※	※
↑	↓	↓	―	非金属鉱業

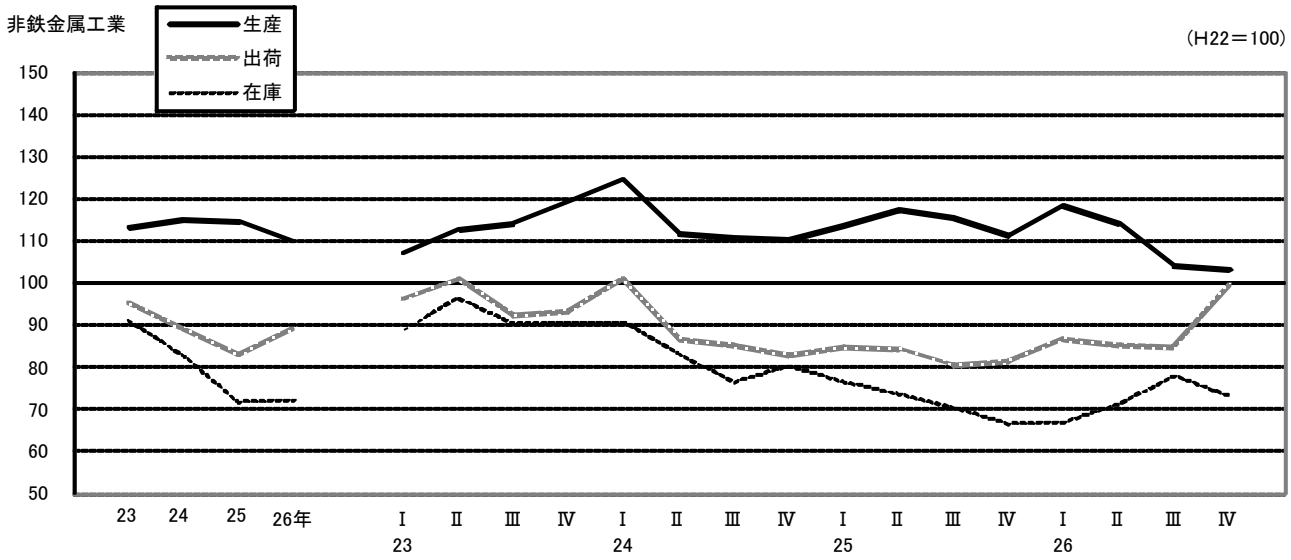
表中の「※」は、統計の秘密保持の立場から、特に内容を秘匿としたものです。

業種別生産・出荷・在庫指数の推移

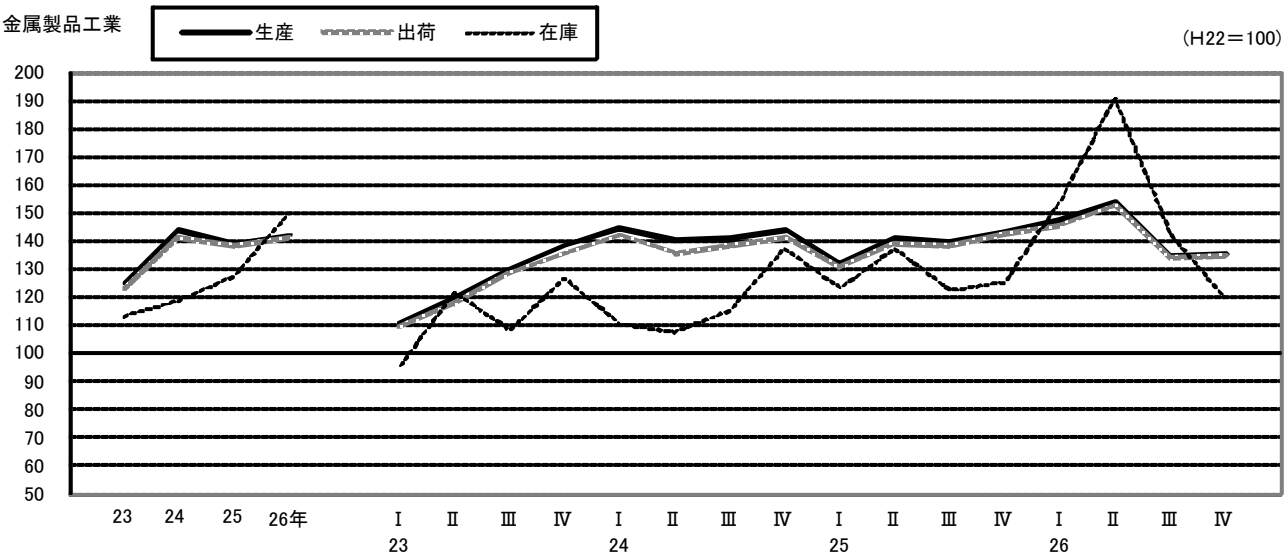
以下のグラフは平成２２年を基準年（H22=100）として、平成２３年Ⅰ期から平成２６年Ⅳ期までの業種別の生産・出荷・在庫指数（年別は原指数、四半期別は季節調整済指数）の推移を表しています。

注）変動の幅に応じて縦軸の目盛がグラフによって異なります。また、秘匿されている系列は除きます。

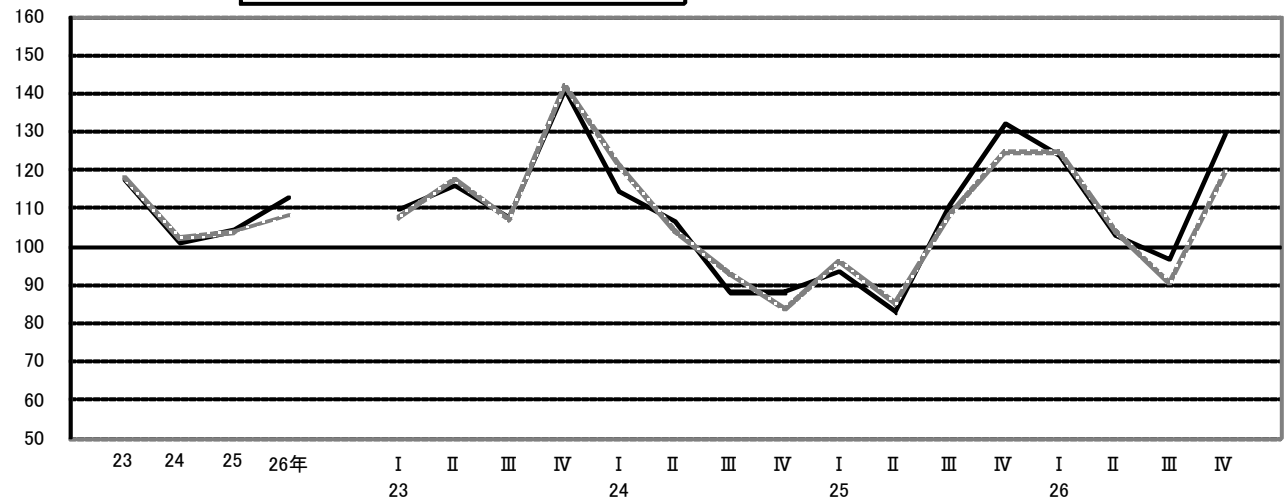




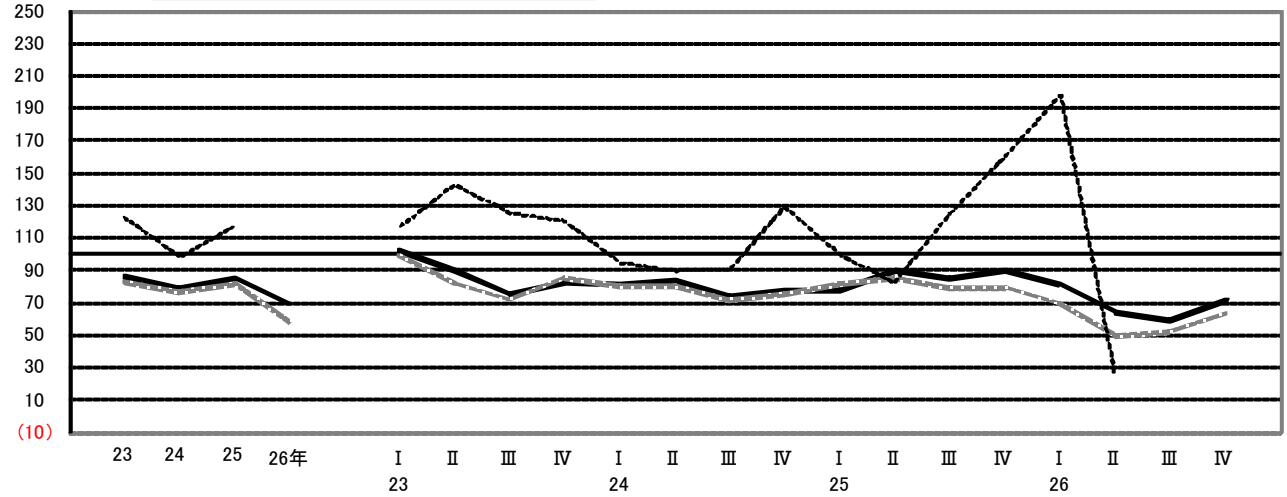
金属製品工業



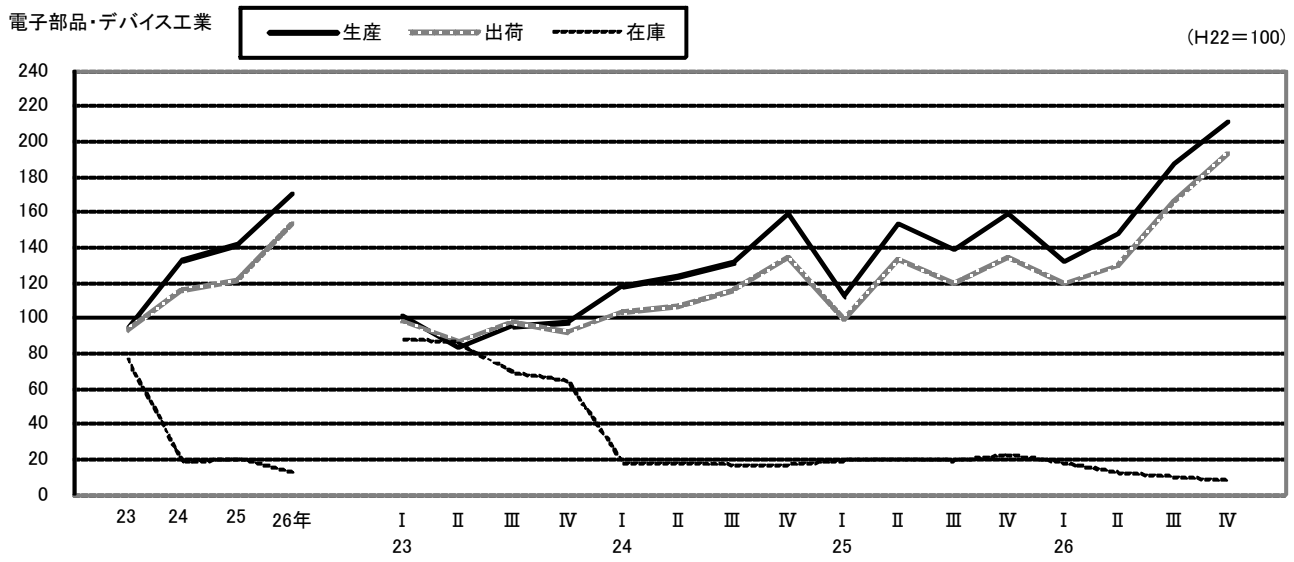
はん用・生産用機械工業



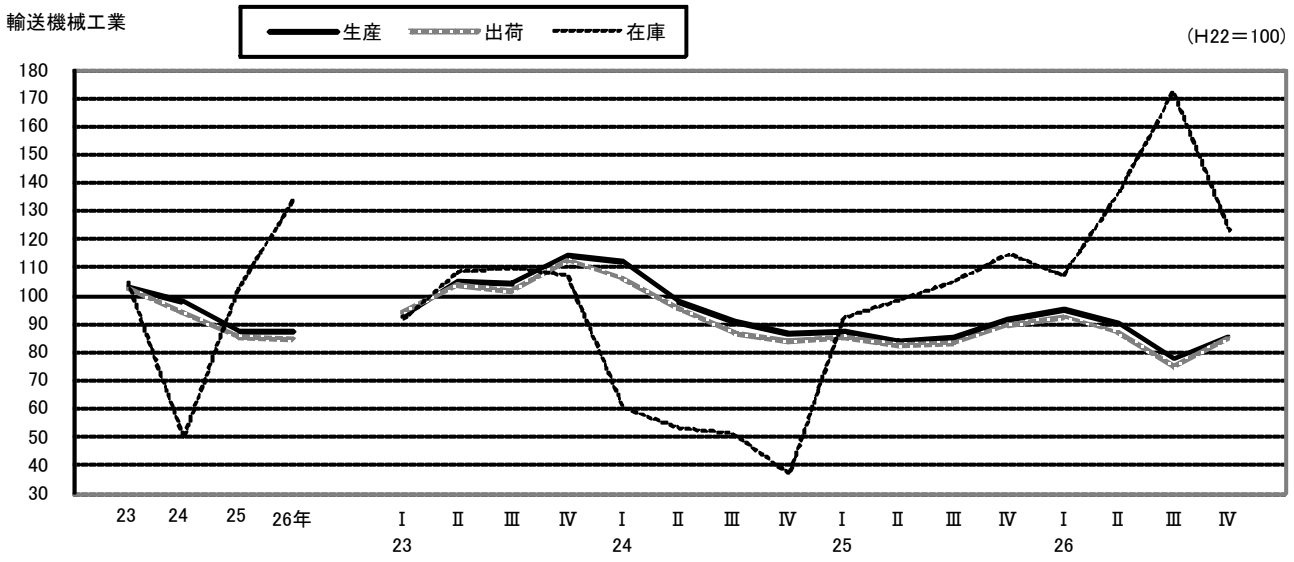
電気機械工業



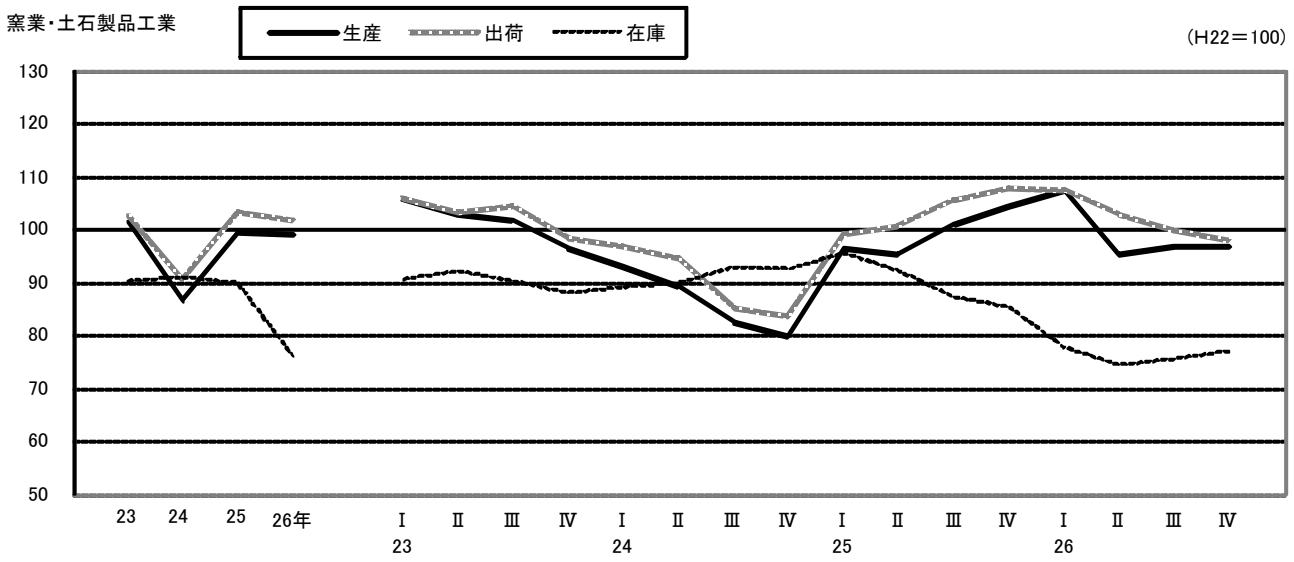
電子部品・デバイス工業



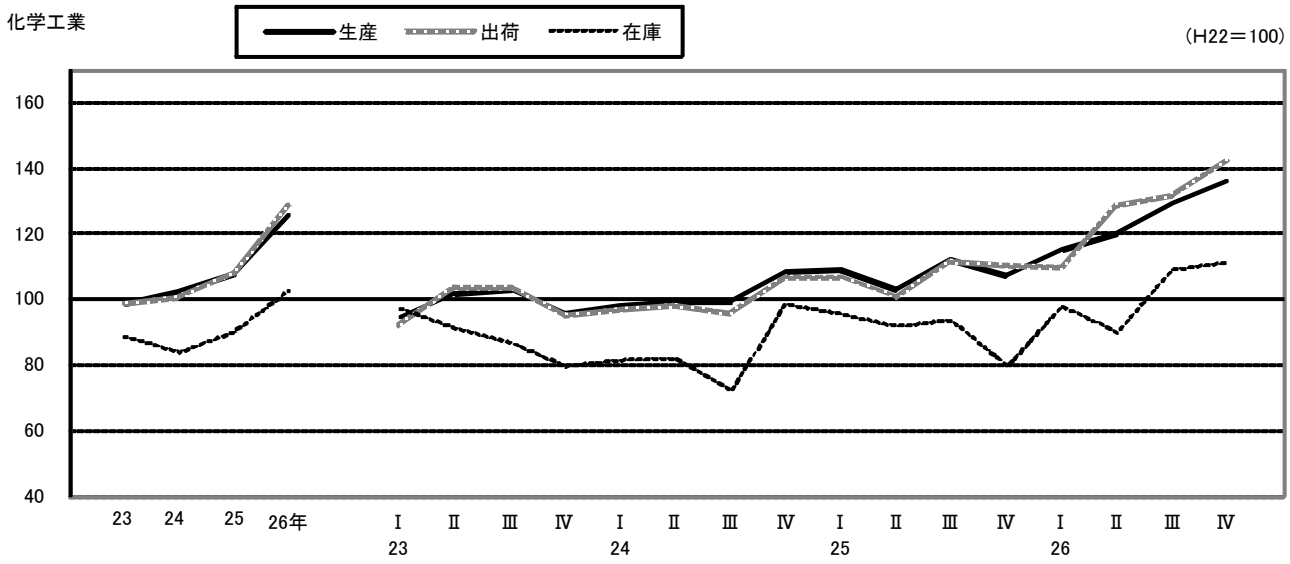
輸送機械工業



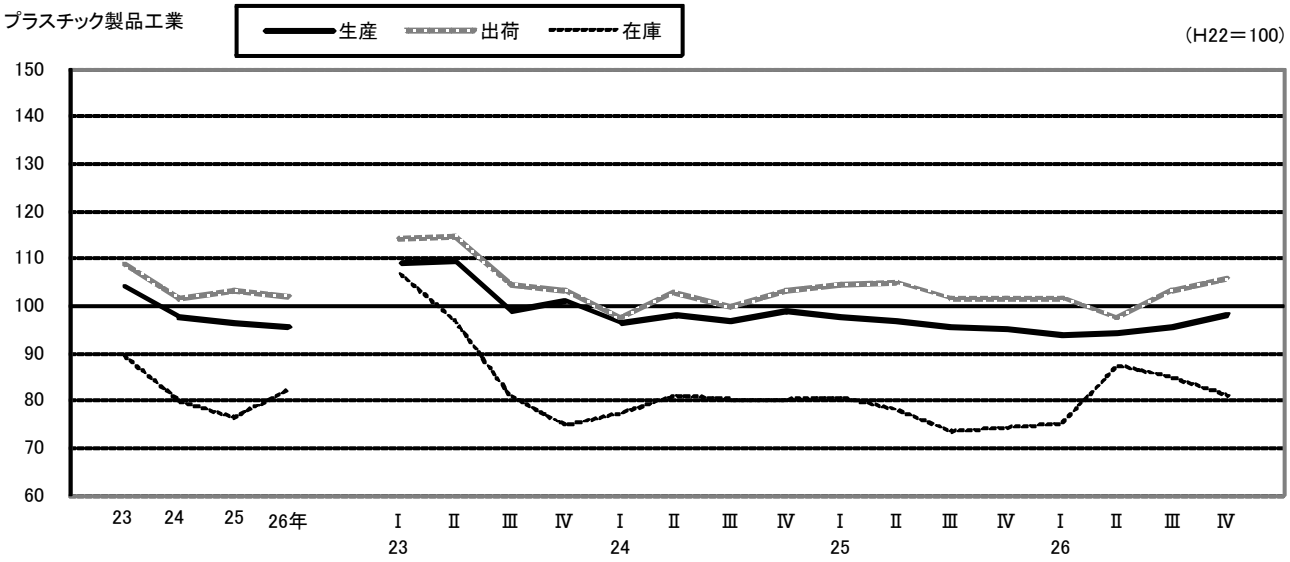
窯業・土石製品工業



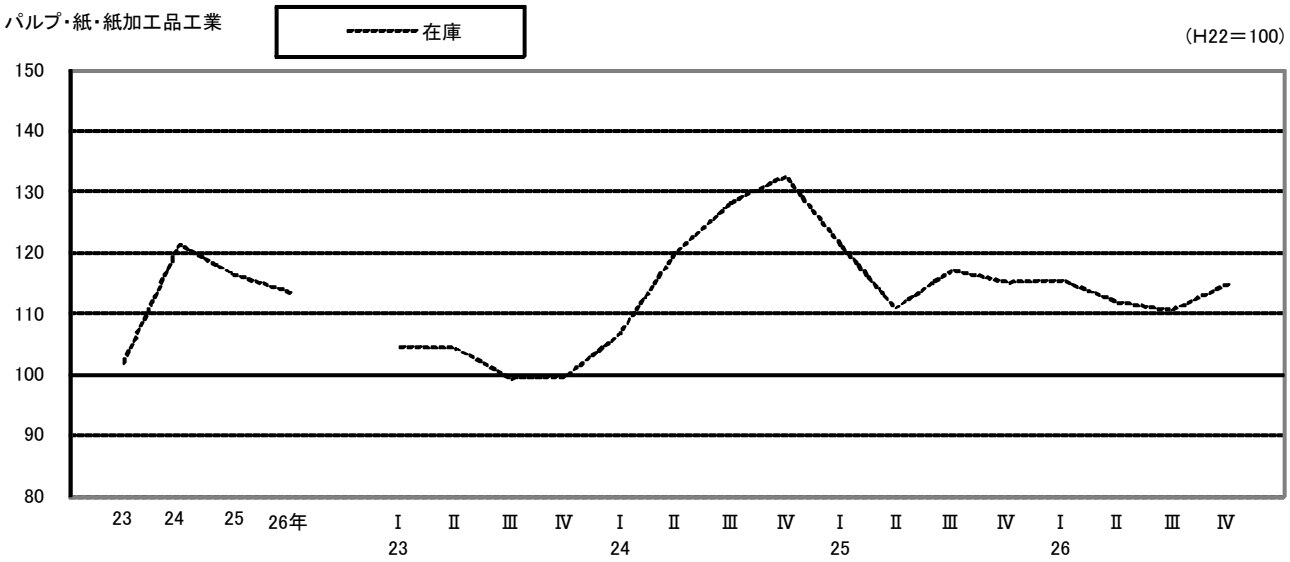
化学工業

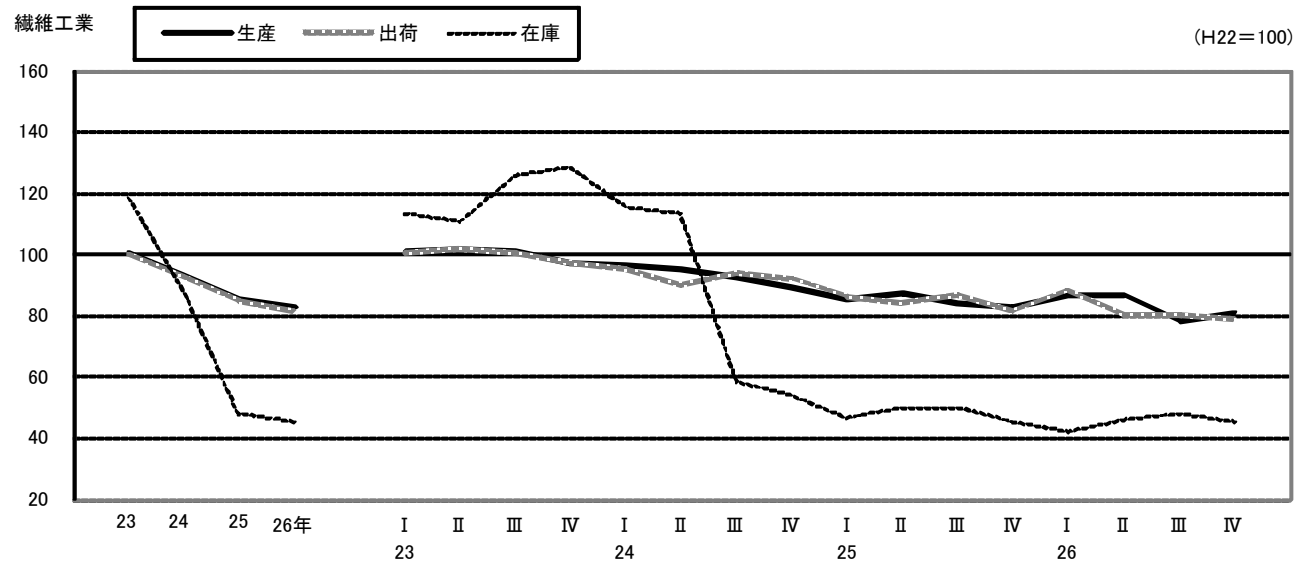


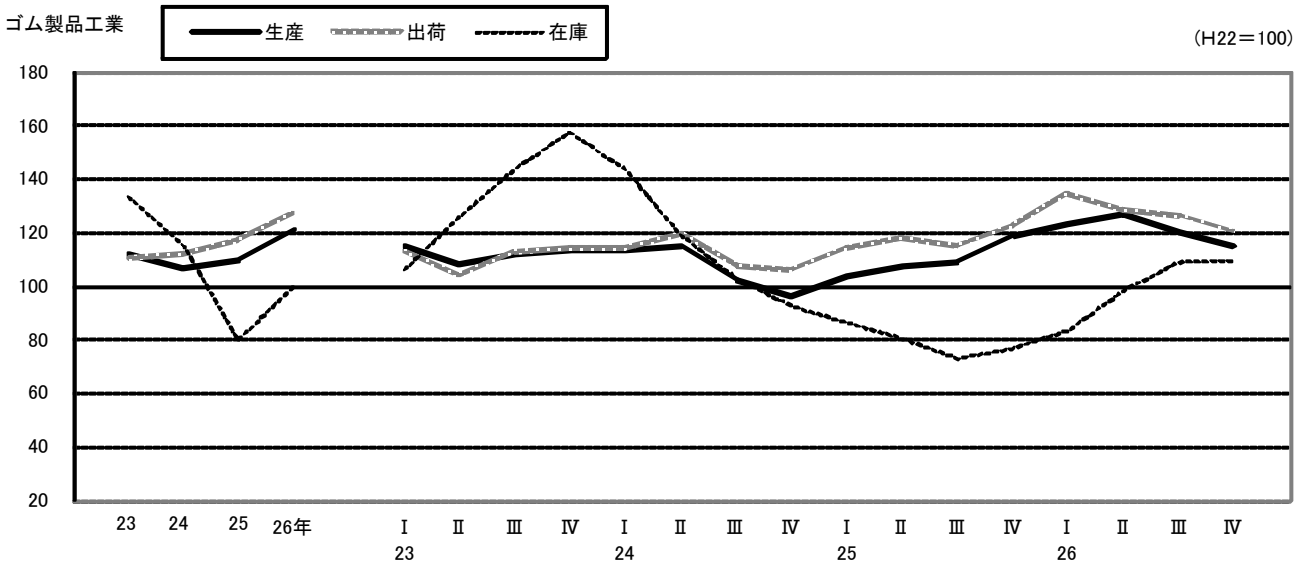
プラスチック製品工業

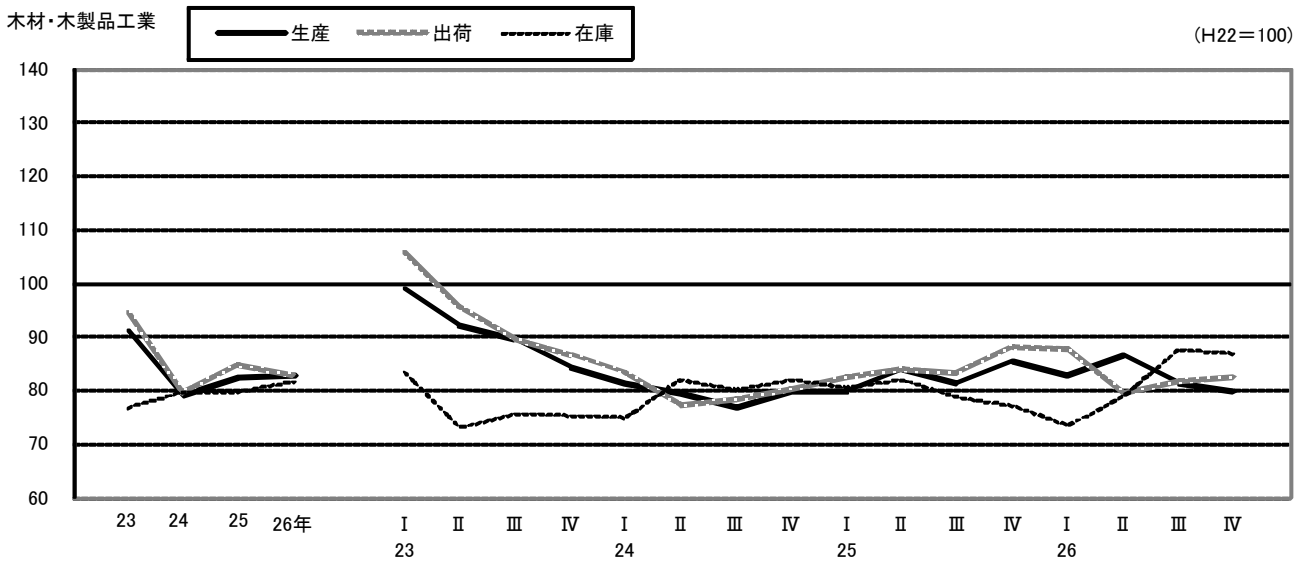


パルプ・紙・紙加工品工業

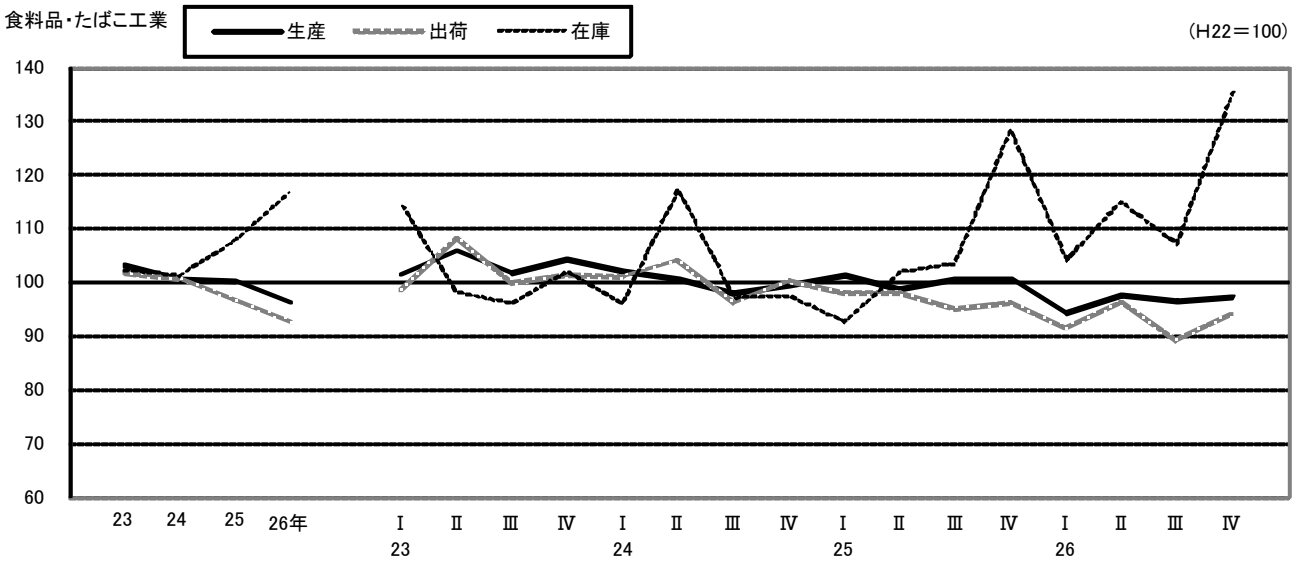



繊維工業
生産
出荷
在庫
(H22＝100)
160
140
120
100
80
60
40
20
23
24
25
26年
Ⅰ
Ⅱ
Ⅲ
Ⅳ
23
24
25
26

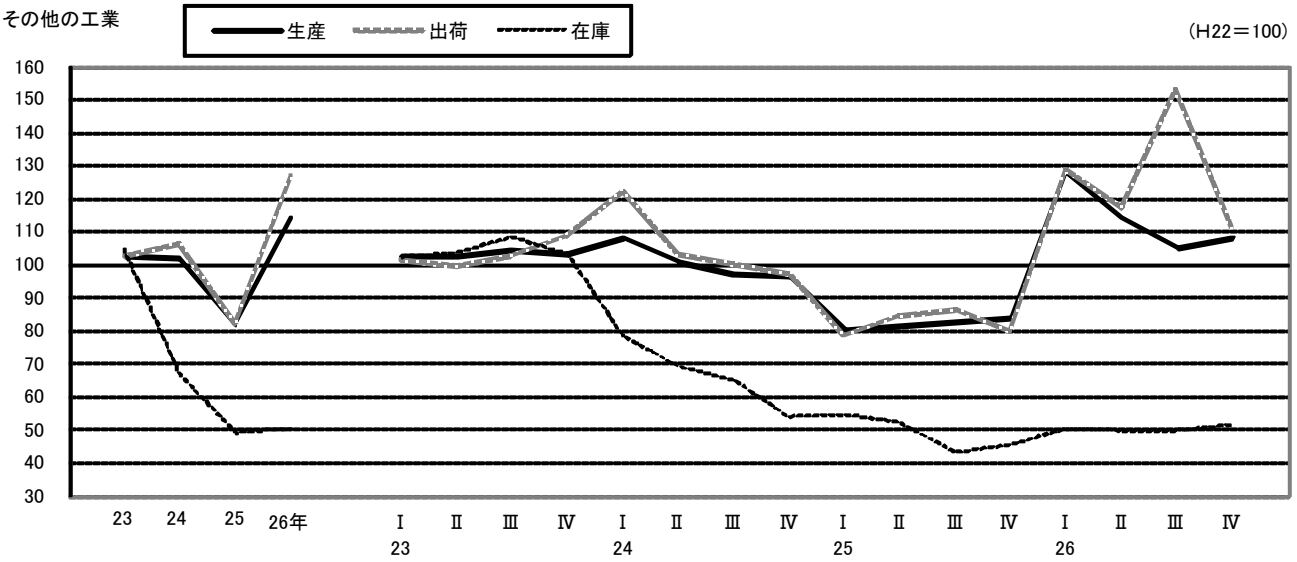
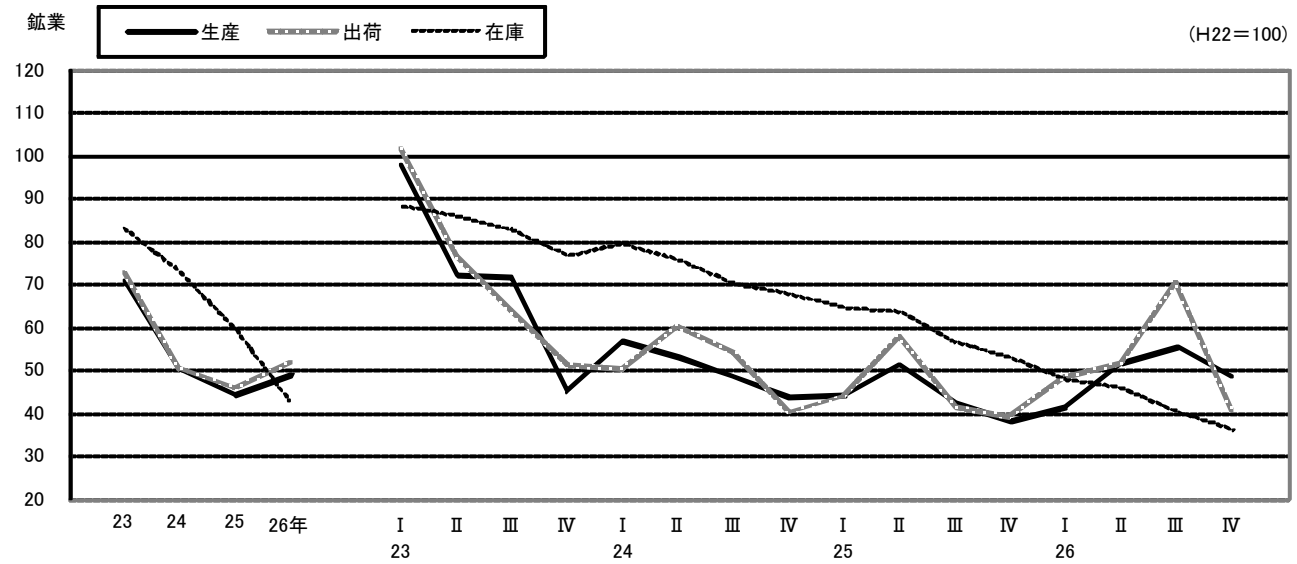

ゴム製品工業
生産
出荷
在庫
(H22＝100)
180
160
140
120
100
80
60
40
20
23
24
25
26年
Ⅰ
Ⅱ
Ⅲ
Ⅳ
23
24
25
26


木材・木製品工業
生産
出荷
在庫
(H22＝100)
140
130
120
110
100
90
80
70
60
23
24
25
26年
Ⅰ
Ⅱ
Ⅲ
Ⅳ
23
24
25
26

食料品・たばこ工業



その他の工業



鉱業